

教え合い、学び合う関係を深める

しばらく、ご無沙汰しています。みなさん、お変わりありませんか。

山梨が大雪に見舞われたことは、私の住む大阪でも大きく報じられました。甲府で一メートルもの積雪があったと聞き、大いにみなさんのことを案じました。まして、陸の孤島として、人の行き来はもちろん、物資の運搬もできなかった地域が、県内の至る所にあったそうで、山梨のみなさんのご苦労をお察しします。

降雪のあった日、下関で、『夢甲斐塾』と『青年塾』合同の〈建築部会〉が開催されました。私も参加させてもらいました。会合そのものは、本来の学びはもとより、名物のフグを堪能するなど、盛り上がりました。しかし、その後、山梨から参加した人達が、大雪で帰れなくなってしまいました。中央線は動かない。高速道路も通行できず、みんな、途方に暮れていました。便利な生活のアキレス腱を、思い知らされた大雪でありました。

自然と調和して生きられるありがたさ

作家の曾野綾子さんは、松下政経塾の役員であったことから、親しくお話しさせていただく機会が数多くありました。ある時、「日本人は、自然との調和を重んじるけれども、それは世界的に見ると、きわめてまれ。西欧では、自然は戦うものである。戦わなければ、自然の猛威に飲み込まれる」とおっしゃいました。自然条件に恵まれた日本だから、自然との調和の発想が生まれるのであって、世界中の大半の地域は、厳しい自然と戦い続けてきたのだという意味です。大雪もまた、自然の猛威です。その前に、私達が何と無力なことか。`自然は厳しい`ことを、今一度思い起こせとの教訓と受け止めたいものです。

『夢甲斐塾』と『青年塾』の協力関係を深める

さて、最近、私は、『夢甲斐塾』と『青年塾』との協力関係を深めることに力を入れています。どちらも、私が塾長です。だから、両者は、まさに兄弟のような関係にあります。その意味からも、お互い、もっと緊密に協力し合いたいと思っているのです。

幸い、〈建築部会〉は、順調に立ち上がり、`兄弟仲良く`の実態が生まれつつあります。また、〈リーダーセミナー〉にも、四人の『夢甲斐塾』出身者が参加しています。〈福祉部会〉にも、これから参加する人が現れると期待しています。〈森の防潮堤造りのためのドングリ栽培プロジェクト〉にも、少数ながら参加してくれている人がいます。

そんな中で、みなさんの先輩である、小笠原礼法の指南役・木村由起子さんが、『青年塾』の人達を指導してくれました。

きっかけとなったのは、『青年塾』の講座です。ある講座で、講師の講話の後、お礼の品をお渡しする段になりました。お礼の言葉の後、代表の塾生が、お土産をビニー

ル袋に入れたまま、「ありがとうございます」と、お渡ししたのです。私は瞬間、失礼ではないかと思いました。ビニールの袋に包んだままお渡しする姿が、いかにも無粋に見えたのです。

小笠原礼法発祥の土地として

そこで、くだんの塾生に、「お土産をお渡しする時の礼儀作法を一度調べてみてくれないか。ついては、『夢甲斐塾』出身で、小笠原礼法の指南役をしている女性がいる。その人を紹介して上げるので、正式な礼儀作法を調べてみてほしい。そしてその結果を、全塾生に周知徹底してほしい」と依頼したのです。

私から調査を依頼されたのも、女性でした。二人は、木村さんの出張先である名古屋駅で落ち合い、詳しく教えてもらったようです。その結果について、私はまだ報告を受けていません。いずれ、みなさんにもお伝えしたいと思っています。また、これから『青年塾』の中で、木村由起子さんに、`礼法`の指導をしてもらいたいとも思っています。これもまた、『夢甲斐塾』と『青年塾』の交流の姿でしょう。

併せて、私は、『夢甲斐塾』の中でも、先輩の指導による、小笠原礼法の学びを深める試みをして良いのではないかと思います。小笠原礼法は、山梨県が発祥の地です。その意味からも、山梨県の人達は、小笠原礼法を知る努力をした方がいいのではないのでしょうか。

もし、『夢甲斐塾』では、伝統的に、小笠原礼法を全員が習得しているとしたら、それだけでも、『夢甲斐塾』の存在価値が高くなるように思います。「あなたは、『夢甲斐塾』の人でしょう。先ほどから立ち居振る舞いを拝見していると、小笠原礼法に従っていますからね」と言われるとしたら、それだけで、山梨の素晴らしさを発信していることになります。

先輩と後輩の協力関係を深める

『夢甲斐塾』と『青年塾』の兄弟関係を深めることにこれからも力を入れていきたいのですが、それ以上に、『夢甲斐塾』の中で、先輩諸氏と後輩諸氏の間で、実のある交流関係ができていくことの方が、もっとも大切ではないのでしょうか。

一度、先輩にはどんな人がいて、その人がどんなことをしていて、どんな学びが得られるかを調べてみるのも、一案です。目を組織の外に向けることも大切ではありますが、内部に、多くの師匠や仲間がいることにも目を向けてほしいのです。それによって、『夢甲斐塾』の総合力も高まってくることと確信します。

三月の例会は、身延山の登山と聞いています。私も、`老骨むち打ち`、参加させていただくつもりです。併せて、登山だけでなく、身延山の歴史やとりわけ宗教との深いかわりについて、諸君に教えてほしいと思っています。楽しみにしています。

『夢甲斐塾』 塾長 上甲 晃